



2010年 富山県保険医協会 7/25 富山市桜橋通り6-13、フコクビル11階 (076) 442-8000、FAX 442-3033 発行人 矢野博明 (年間購読料6,000円・一部500円) 第325号

主な記事

- ・医療介護連携シンポジウムに向けて (2面)
・在宅医グループ③「新川地域在医協」(3面)
・「口は災いのもと?糖尿病と歯周病」(4面)
・ビスホスホネートと歯科歯科連携 (5面)
・「安全な歯科医療への取り組み」(6面)
・中村哲さん講演会「アフガンに命の水を」(7面)

富山県議会は六月二十二日、「子宮頸がんワクチンの公費助成を求める国への意見書」を全会一致で採択しました。子宮頸がんは、日本の二〇歳代の女性では乳がんを抜いて発症率が一番高く、

年間一万五千人以上が発症し、約二千五百人が死亡しています。その原因は、HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染によるもので、ワクチンで予防できる唯一のがんです。接種は半年の間に三回必要で、費用は四

万円〜六万円が必要となるため、日本産婦人科学会や日本小児科学会は、十一歳〜十四歳の女子に公費負担で接種するよう求めています。そのため意見書は、子宮頸がん予防ワクチンを早期

に予防接種法に位置づけることと、公費助成を行って接種率の向上を図ることを国に求めています。また、昨年十二月十八日には「子どもたちの生命を守るためヒブワクチン及び肺炎球菌ワクチンへの定期接種化等を求める意見書」が採択されています。細菌性髄膜炎の原因の七五%がヒブと肺炎球菌によるものであり、早期診断が困難なことや発症後の治療

子宮頸がんワクチンへの公費助成とヒブワクチンの定期接種を求めて

県議会で二つの国への意見書を採択

意見書は、ヒブワクチン及び小児用肺炎球菌ワクチンについて、予防接種法を改正し、ヒブ等による重症感染症(髄膜炎、喉頭蓋炎、敗血症)を定期接種対象疾患に位置付けることや、ワクチンの安定供給のための手立てを講ずることを求めています。

こういふ遊びが子供の考える力を養ってくれればとの期待も込めて、さて今年は何に挑戦するか。(T・N)

9月の市町村議会で

「保険でよい歯科医療を求める国への意見書」採択を

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣 厚生労働大臣 あて

市町村議会議長 *** **

よりよい歯科医療の実現を求める意見書(案)

口腔機能の向上が全身の健康維持や要介護状態の改善に大きな役割を果たすことは、厚生労働省の厚生労働科学研究等で実証されている。また、口腔機能の向上は国民医療費の節減にも繋がる結果が「8020運動」の実績に示されている。

しかし、歯科医療については、健康保険の範囲内では歯周病の継続治療や入れ歯の治療を十分に行うことができないこと、長年にわたり新たな歯科治療技術が健康保険に取り入れられなかったことから、国民の要望に答えられない状況にある。

また、診療報酬が抑制傾向にあることから、歯科医師をはじめ歯科衛生士、歯科技工士など歯科医療従事者の労働環境は厳しいものとなっており、この結果、各地の歯科衛生士や歯科技工士養成所で廃校や定員割れが起きるなど、将来の歯科医療の確保が懸念される状況にある。

このままでは多くの国民の健康保持に支障をきたす恐れがあることから、政府におかれては、安全で普及している歯科技術を保険に導入するなど、診療報酬の改善を行い、患者負担を増加させることなく、保険でよりよい歯科医療を確保するよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

賛同署名 にご協力ください 署名用紙は8月中旬に送付します

6月県議会の論戦から

医療連携・口腔ケア・在宅歯科医療で

六月県議会予算特別委員会で、医療連携・口腔ケア・在宅歯科医療について質疑が行われました。質問したのは火爪弘子議員(共産)。

新川・射水以外の医療圏で どう広げていくのか

(石井知事)

新川地域で開業医グループの中心となってこられた入善の中川医師より、新川厚生センターと新川地域在宅医療連携協議会の取り組みが大きく紹介されている冊子をいただいた。記事の中で県が在宅医療センターを予算化し、薬剤師の参加や医療系ショートステイ確保を支援してきたことが歓迎されている。そこでこれから新川・射水以外の医療圏で在宅医療支援センターの設置や、体制充実の取り組みをどう広げていくのか伺いたい。

さらには関係機関と十分連絡をとりながら、たとえば高岡市による開業医のグループ化を支援するなど、対象を順次拡大する。うまく機運を醸成しながら県内全域で質の高い在宅医療が

口腔ケアの重要性と在宅歯科医療の推進

(火爪議員)

三月の新川厚生センターの研修会で、在宅患者や要介護者への口腔ケアの必要性の話に感動が広がった。私も富山市内で在宅歯科医療にとりくんでいる歯医者さんに、人間の健康にとって口腔や嚥下の力が大切かを数々の実例で教えていただいた。そこで介護施設や在宅の「訪問歯科健診」に取り組んだらどうか。在宅歯科医療推進のきっかけになるかと考えるがどうか。

また「在宅歯科医療推進連携室」を県が整備する予算を国が助成しているが富山県も手を上げたらどうか。

「訪問歯科健診」についても県の医師会、歯科医師会、市町村、介護保険施設などと十分連携をとりながら取り組んでまいりたい。

在宅歯科医療連携室整備事業、訪問歯科健診にも取り組むたい (厚生部長)

在宅歯科医療は歯科医師のみでなく医師、ケアマネジャー、栄養士など関係者の連携により推進していくことが重要。県としても関係職員を対象に、摂食と嚥下、口腔ケアなどの研修や多職種連携による事例検討会などを開催している。

なお、国から助成を受けて実施する在宅歯科医療連携室整備事業は、かかりつけ医や介護関係者との調整、歯科診療所の紹介、在宅歯科医療機器の貸し出しなどの業務を行う。この国庫補助事業の活用を含め、現在県歯科医師会と協議をすすめているところだ。

最初の難問は竹の調達であったのだが、スタッフの義父がわざわざ我が家のためにまっすぐ伸びる五メートルの竹を二つに割って持ってきてくださった。竹が手に入ればあとは簡単。俄然やる気が起きてくる。早速切り口にカンナをかけ、節はグラインダーできれいに削る。かびないようにと表面を塗装し、脚を作り、最後に排水の仕掛けを作って完成である。

楽しみながら作ったグッズであるが子供達にも好評である。お店と違って流れてくるのはそうめんだけではない。ミニトマトだってサクランボだって転がるものなら何でも流せる。

こういふ遊びが子供の考える力を養ってくれればとの期待も込めて、さて今年は何に挑戦するか。(T・N)



「小人閑居して不善を為す」 恩師に良く言われた言葉の一つである。

ゲーム機で遊ぶ子供が増える一方で子供を連れてアウトドアに出かける家族も増えていらい。スポーツ店にはキャンプ用品などが所狭しと並べられている。恩師の言葉を頭に浮かべながら我が家でもアウトドアでの遊びを工夫している。昨年は「流しうめん」に挑戦した。

最初の難問は竹の調達であったのだが、スタッフの義父がわざわざ我が家のためにまっすぐ伸びる五メートルの竹を二つに割って持ってきてくださった。竹が手に入ればあとは簡単。俄然やる気が起きてくる。早速切り口にカンナをかけ、節はグラインダーできれいに削る。かびないようにと表面を塗装し、脚を作り、最後に排水の仕掛けを作

って完成である。楽しみながら作ったグッズであるが子供達にも好評である。お店と違って流れてくるのはそうめんだけではない。ミニトマトだってサクランボだって転がるものなら何でも流せる。

こういふ遊びが子供の考える力を養ってくれればとの期待も込めて、さて今年は何に挑戦するか。(T・N)